

今回のテーマ

やってみよう GIGAびらき

GIGAびらきは、学びの通過儀礼

子どもたちが1人1台の端末を手にし、それを「学びの道具」として使い始めるとき、大切なことは何か。大きさに言えば、現代社会においては、自分専用の端末を手にすることが大人への第一歩を踏み出すときでもあります。

だからこそ、単なる端末支給で終わらせず「通過儀礼」や「儀式」として、特別感のある「GIGAびらき」を共に経験することが重要です。

今号では、「GIGAびらき」を端末との出会いの場面（1年次）と、付き合い方を振り返り学ぶ場面（2年次以降）に分けて、押さえておきたいポイントを紹介します。



監修：豊福晋平先生
国際大学 GLOCOM 主幹研究員 / 准教授
専門は学校教育心理学・教育工学・学校経営

一貫して教育情報化をテーマとして取り組み、近年は、北欧諸国をモデルとした学習情報環境(1:1/BYOD)の構築とデジタル・シティズンシップ教育の普及に関わる。日本デジタル・シティズンシップ教育研究会 JDICE 共同代表理事、国立教育政策研究所評議員(2022～)。

国際大学 GLOCOM 教材ライブラリ

<https://full-glocom.jp/resources>

小学校をはじめ、中・高や家庭でも使える
デジタルシティズンシップの教材があります



日文的 Web サイト

日文 🔍



端末との出会い

必ず伝えたい③つのこと

- ①自分のものとして大事に扱う
- ②学びの道具として役立てる
- ③困ったときはあわてず、ひとやすみする

キーワード

- ・だいに
- ・じぶんで
- ・あわてない

国際大学 GLOCOM 教材ライブラリ

<https://full-glocom.jp/resources>

GIGAびらきでは

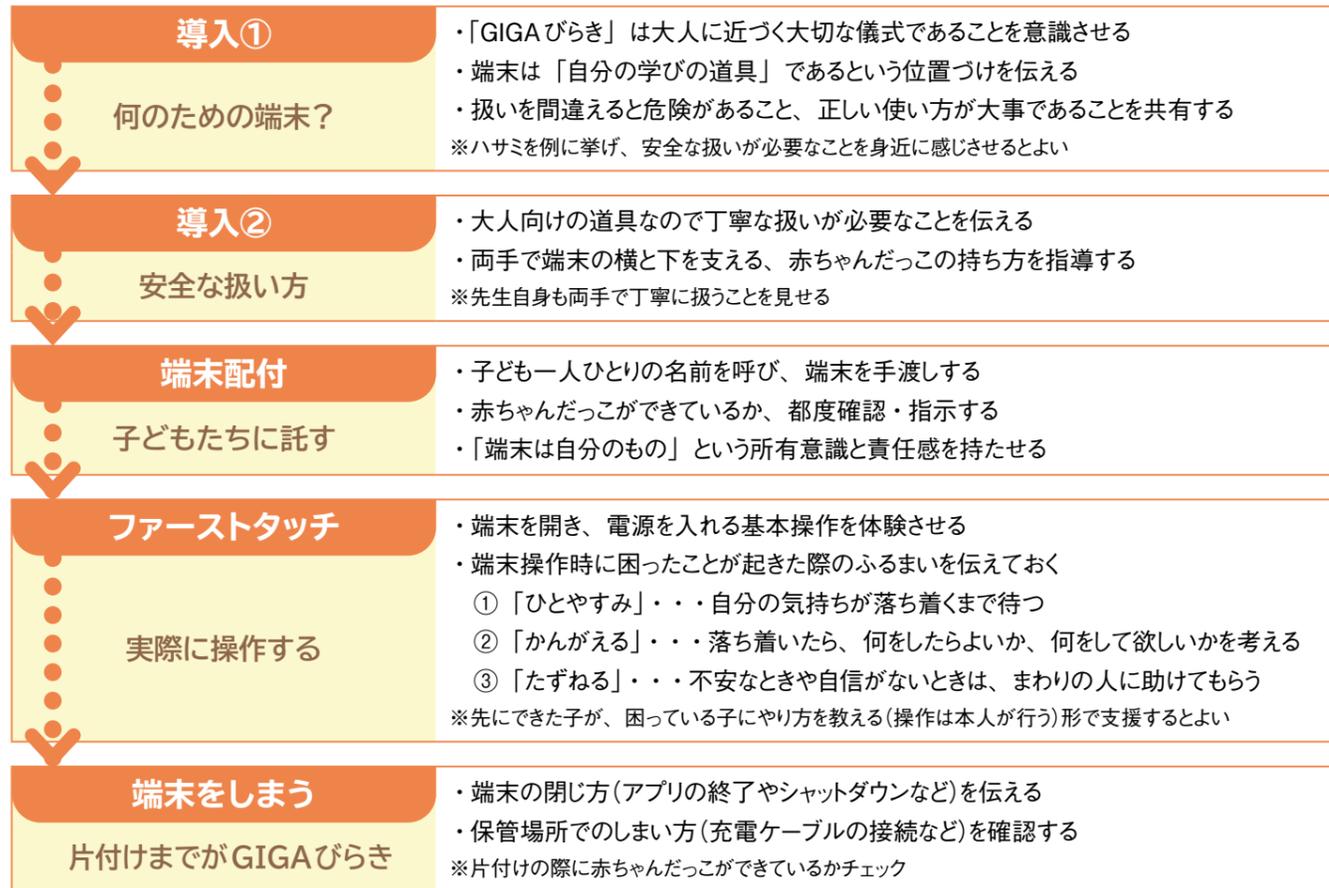
一つ目と二つ目のコマが使えます。



豊福先生コメント

小学校低学年でGIGAびらきを行う大きな効果は、端末の扱いが丁寧になり破損が減ることです。教員が扱い方のモデルを具体的に示しつつ、判断や操作の工夫を徐々に子どもに任せることで、「自分の道具」という意識と責任感が育まれます。

端末と出会う最初のGIGAびらきの手順(例)



よくある現場課題

Q. 端末を使って、授業中に関係ないことをしそうで不安です。

A. 子どもたちが、主体的に取り組み、自律を促す工夫が有効です。

デジタル環境は一人ひとりに合った学びを提供できる一方で、とても魅力的で没入しやすい、あるいは注意散漫になりやすい面がありますが、これは子どもに限らず大人も同じです。日常的に「ついスマホを見てしまう」ように、私たちはみなデジタル環境との付き合い方にバランスを問われる時代を生きています。端末活用場面での指導の工夫としては次の3つがあります。

- ・一斉指導はピンポイントに留め、子どもの作業時間を十分に確保する。あらかじめチェックポイントを設定しておき、そこまでの工夫や段取りは子どもに任せる。
- ・自分自身で気持ちの切り替えや注意散漫の抑制ができること、できたらカッコイイことを示し、具体的な方法を試すよう促す(「ピタッと」「のびーっと」「はいおしまい」などのキーワードとアクションを結び付けたもの)。
- ・学校場面だけでなく日常生活でも自力で生活をよりよくできることを教える。

端末との付き合い方を振り返る

必ず伝えたい③つのこと

- ①自分の端末は「学びの道具」として使えているかを問う
- ②ベストな使い方は、まず自分自身で考えることが大切
- ③困ったことが起こったときの対処方法を確認する

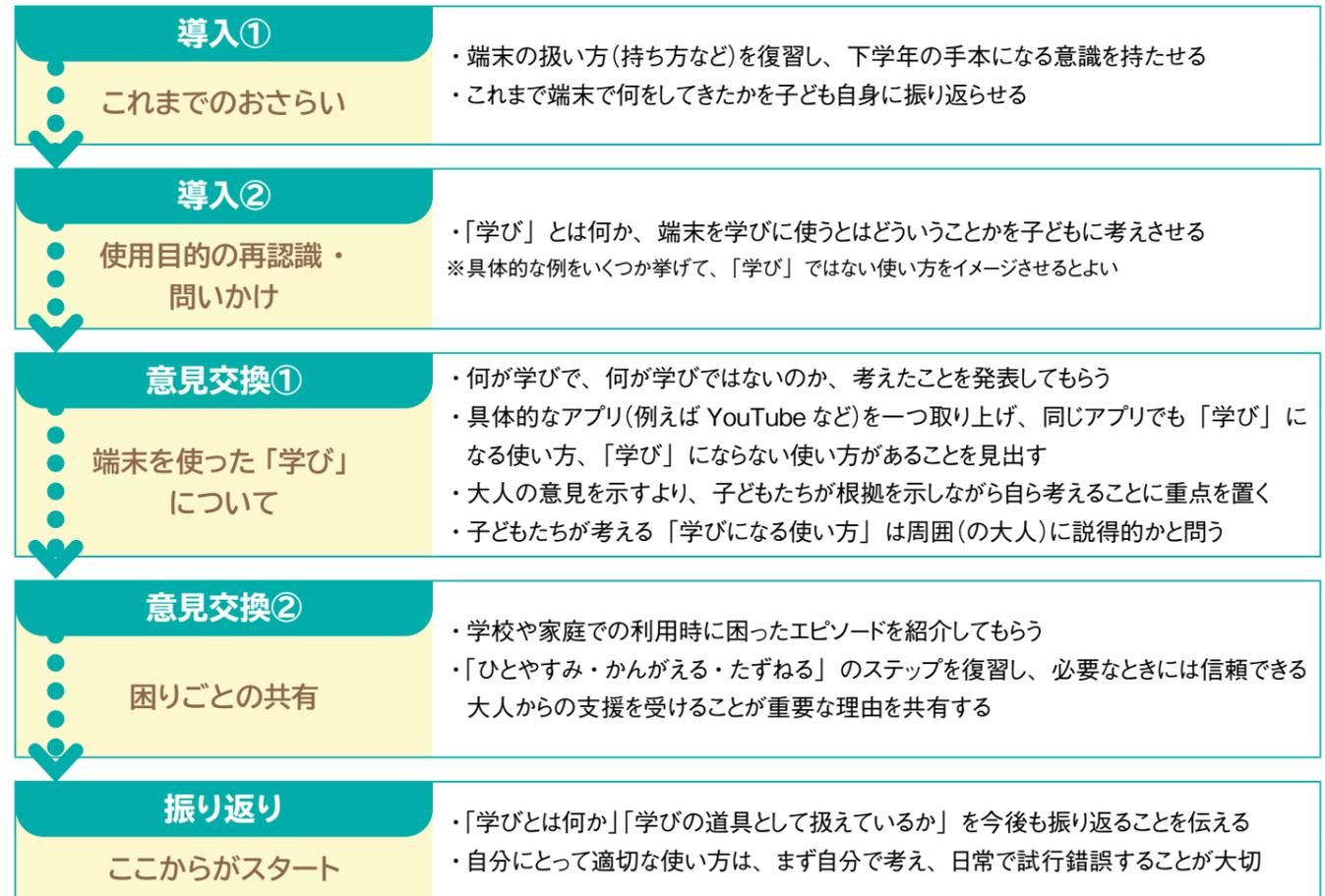
キーワード

- ・学びを考える
- ・使い方を見きわめる
- ・困りごとを解決する

豊福先生コメント

小学校中学年になれば、端末利用の何が「遊び」で何が「学び」なのか、考えられるようになります。どのような使い方が自分にとって「学び」になるのかと問いかけ、場合に応じた活用や自制の意識を高めることは、デジタル技術を自らのために適切に役立てる力を養います。

2年目からのGIGAびらきの手順(例)



Q. 家庭での端末との付き合い方は、どのように考えればよいでしょうか。

A. 端末利用だけでなく生活時間全体のバランスを自分自身で考えることが大切です。

デジタル端末の利用シーンで、子どもたちは大人から小言をもらう機会が多く、褒められることは減多にありません。子どもたちも「使いすぎ」で文句を言われるのはうんざりしているのですが、誘惑に勝つのは簡単でないことを知っています。だからこそ、頭ごなしにルールを押し付けるより、子どもが自分で使い方を考え、調整できるように保護者の支援が重要です。自分一人では難しい低学年では、「使う前に利用時間を宣言する」「終わりの合図(タイマーや声かけ)を決める」ことを通じて、利用終了をサポートします。また、家庭内では端末利用をお休みする場面や場所(食事中は触らない・自室に持ち込まない等)を家族の約束にするのもお勧めです。小学校中学年以降で大切なのは、端末利用に限らず、「よりよい時間の使い方」を自分で考え、コントロールすることです。一朝一夕では身につかないので、学校と家庭で協力して、少しずつ取り組んでいきましょう。

最新ニュース

コマ撮りアニメーションの世界を広げる！ KOMA KOMA ワールド

コマ撮りアニメ制作アプリ「KOMA KOMA」を使った様々な授業の実践事例や、全国の児童生徒のみなさんの作品、表現のヒントなどを紹介しています。



サポート情報



デジタル教科書サポートサイト

セットアップマニュアルや実践事例のご紹介など、デジタル関連の情報をまとめた特設サイトです。



イチから分かる！ デジタル教科書 キホンのキ

よく聞くカタカナ語の解説から活用アイデアまで、デジタル教科書に関することを幅広くご紹介する一冊です。



マニュアルをお探しの方へ

上記のサポートサイトから「サポート情報 > 各種マニュアル」へお進みください。

お急ぎの方はこちら



デジタル商品・サービスについてのお問い合わせ

デジタルサポートデスク(平日10時~17時)
d-sapo@nichibun-g.co.jp

つなぐ つながる ICT Vol.2

日文教育資料
令和8年(2026年)3月11日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD3401110020

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690